

第40回六甲クイーンズオープン



7月5・6日 神戸六甲ボウル

▲優勝決定の瞬間、号砲とともに放たれた金色の紙吹雪が勝者を包んだ
▲敬愛する関西プロの先輩・久保田彩花に涙顔で祝福の花束を贈呈され、堀井も涙

4月の初Vから76日、堀井春花が早くも2勝目!

1ポイント差でトップシードに

今大会、堀井は予選10Gをトップの石田万音から90ピン差の4位で通過。続く準決勝5Gでは5位に後退したものの、トップに躍り出た松永裕美(最終順位は7位)との差は49ピンまで詰まっていた。

上位8名による決勝ラウンドロビンでは、総当たり7G終了時点で3勝3敗1分けの4位。引き分けの相手は同期のトップランナー・中島瑞葵で、最終ポジションマッチは3位・中島との再戦となり、堀井が247:196で勝利。石田と桑藤美樹の1、2位対決が204:180のロースコアで終わったため、堀井が石田を1ポイント差逆転してトップシードを獲得し、2位・石田、3位・中島、4位・桑藤の順でTV決勝ステップラダー(1Gマッチ)進出の4名が確定した。

難コンディションの決勝レーン

TV決勝のレーンは、ジャストポケットでもほんのわずかな軌道のズレでピンが割れてしまう難コンディションで、スタートから波乱のゲーム展開に。4



▲優勝決定戦では3度の⑩ピンタップに泣いた石田だが、1ポイント差でトップシードの座を逃したことがそもそもの敗因だ

コアダウン。対する石田も6フレまでノーストライクとアジャストに苦しんだが、7フレからのオールウェーで224とし、今季3勝目を懸けて堀井の待つ優勝決定戦へと駒を進めた。

その優勝決定戦は一転、お互いノーミスで締まったゲームとなったが、2フレで③⑨⑩スプリットを見事カバーした堀井が9フレまでに2度の3連発を決め、4、5、7フレ⑩ピンタップ(すべてスペア)の石田をリード。堀井が10フレ1投目もストライクとしたところで勝負は決し、今年4月の初勝利からわずか76日、「1勝目より2勝目のほうが達成は難しい」と言われるプロの公式戦で、早くも2勝目を挙げた。

位決定戦では、中島が1フレでいきなり②⑦スプリットオープン。2フレからの4連発で巻き返したものの、6フレがビッグフォー、7フレは⑦⑩と割れて天を仰ぐ(連続オープン)。

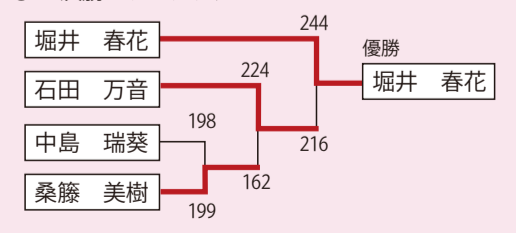
対する桑藤もスコアは伸びず、8ピン以上で勝利確定の10フレ3投目が③⑨⑩スプリットの7本カウント。2投目で⑩ピンを残した中島がこれをカバーし、199の同点でワンショットプレーオフへ...と思いきや、その一投はピンの手前でガターレーンに落ち、無念の1ピン差敗退。中島はガクリと腰を折り、しばし動くことができなかった。

辛くも勝ち上がった桑藤だが、続く3位決定戦では2つのスプリットオープンに⑩ピンのカバーミスと乱れてさらにス



▲2014年の第30回大会で初タイトルを獲得した桑藤。相性のいい六甲でTV決勝末席から通算5勝目を目指したが3位に終わった

●TV決勝ステップラダー



第40回の節目を迎えた伝統の女子プロ公式戦「六甲クイーンズオープントーナメント」は7月5・6の両日、神戸六甲ボウルにプロ83名・アマ10名が参加して行われ、4月の宮崎プロアマオープンで待望の初優勝を飾ったばかりの堀井春花(53期: J-Bowl御坊)が早くも2勝目を挙げた。
(主催: 株式会社サザンモール六甲)

4年前のプロテスト合格当時、堀井とは“出戻り同期”の清水弘子(38期生としてJPBA通算14勝)は「みんな若くて勢いがある。53期の子たちはホントにすごい」と評していた。そのとおり、堀井のほかにデビュー戦から2連勝してすでに8勝を挙げ、昨年は史上最年少の3冠女王にも輝いた中島を制した幸木百合菜と3名がタイトルホルダー。唯一未勝利の原野萌花もコンスタントに入賞を積み上げ、今年は第1シードに名を連ねているという少数精鋭ぶりだ。

それを思えば、堀井の快進撃もここでストップすることはないはず。今回勝利した中島や石田に、さらに肉薄する活躍を期待したい。



▲ベストアマは総合78位の藤田美空選手(19歳/JB)が獲得

堀井春花のコメント (今月の表紙)

今回は珍しく外のラインを投げました。いつもは7、8枚目あたりだけど、きょうは5枚目。後半はビビって、ちょっと内側に落ちてますけど(苦笑)、あれだけ外に立って我慢したのは久しぶり。内に寄るとノーヘッドしてしまうので、予選のときからアドレスのボール位置を下げて外に張り付いていました。東海オープン(準決勝敗退)では、私にとってはディーブインサイドの、あれ以上は入れないところまで内に入っていたので、今回はけっこう楽に感じました。同じ



▲スカイA中継のゲスト、元阪神タイガースの“代打の神様”松山進次郎氏から花束を受ける

ていませんでした。万音ちゃんのスコアや投げるところを見てしまうと、勝っていても負けていても緊張してしまうので。思いがけずトップシードが取れて、負けても再決定戦があるということもあって、今回は楽しんで投げられました。1年目から3年連続で第2シード。今年こそは第1シードに上がりたいと思っているので、ポイントが大きいA公認の大会で優勝することができたのは本当にうれしいです。優勝ボール: Hammer ダークウェブ・ハイブリッド